

第5・6学年 社会科指導案

日時 平成16年 月 日第 校時
場所 5・6年教室
授業者 清水 義朗

1. 単元名 3. 源頼朝と武士の世の中

2. 指導の立場

(1) 教材観

目標

- (1) 国家・社会の発展に大きな働きをした先人の業績や優れた文化遺産について興味・関心と理解を深めるようにすると共に、我が国の歴史や伝統を大切にし、国を愛する心情を育てるようにする。
- (3) 社会的事象を具体的に調査し、地図や年表などの各種の基礎的資料を効果的に活用し、調べたことを表現するとともに、社会的事象の意味をより広い視野から考える力を育てるようにする。

内容

ウ. 源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦い、京都の室町に幕府がおかれた頃の代表的な構造物や絵画について調べ、武士による政治が始まったことや室町文化が生まれたことがわかること

3. 研究主題にかかわって

4. 単元のねらい

武士が力を持った経過や武士による政治の様子や室町の文化について、興味を持って意欲的に調べながら、我が国の歴史や伝統を大切にし、国を愛する心情をもつことができる。 社会的な事象への関心・意欲・態度
源頼朝の行動や考え、承久の変、元寇などから、武士の社会の仕組みについて課題意識を見だし、見通しをもって追究し、根拠を明らかにして適切に判断することができる。 社会的な思考・判断
武士が力を持った経過や武士による政治の様子等について、具体的に調査を行ったり、年表や地図などの各種の基礎資料を効果的に活用したりして、具体的にまとめたことをわかりやすく表現をすることができる。 観察・資料活用の技能・表現
武士による政治が始まったことや政治の仕組み、室町（武士）や民衆から文化が生まれたことに理解することができる。 社会的事象についての知識・理解

5. 単元の評価規準

--	--	--	--

	ア．社会的な事象への関心・意欲・態度	イ．社会的な思考・判断	ウ．観察・資料活用の技能・表現	エ．社会的事象についての知識・理解
内容のまごとのり評価規準	国家・社会の発展に大きな働きをした先人の業績や優れた文化遺産に関心を持ち、それを意欲的に調べる事を通して、我が国の歴史や伝統を大切にし、国を愛する心情をもとうとする。	国家・社会の発展に大きな働きをした先人の優れた業績や文化遺産から学習の問題を見いだして追究・解決し、歴史を学ぶ意味を考え、適切に判断する。	我が国の歴史上の主な事象にかかわる先人の業績や代表的な文化遺産を的確に調査したり、地図や年表などの各種の基礎的な資料効果的に活用したりするとともに、調べた過程や結果を目的に応じた方法で表現する。	自分たちの生活の歴史的背景、我が国の歴史や先人の働きを理解している。
単元の評価規準	武士が力を持った経過や武士による政治の様子や室町の文化について意欲的に調べることを通して、我が国の歴史や伝統を大切にしていこうとする願いをもつことができる。	源頼朝の行動や考え、承久の変、元寇などから、武士の社会の仕組みについて課題を見いだして追究・解決することができる。	武士による政治や様々な資料を使って、具体的に調査を行ったり、年表や地図などの各種の基礎資料を効果的に活用するとともに、仲間との交流で互いの考えが深まるように表現する。	武士による政治が始まったことや政治の仕組み、室町(武士)や民衆から文化が生まれたことを理解する。
学習活動における具体的評価規準	<p>ア - 1 資料から、武士の世の中に関心を持ち、そのおこりやくらしの様子を調べて調べようとしている。</p> <p>ア - 2 自分の思いを意欲的に発表したり、仲間の意見を最後まで真剣に聞こうとしている。</p> <p>ア - 3 元の兵士と日本の武士が戦っている絵を見て、興味・関心を持ち元について進んで調べよ</p>	<p>イ - 1 初めての武士政権がなぜ武士から受け入れられなかったのかを資料をもとに多面的に考察している。</p> <p>イ - 2 今までの学習をもとに鎌倉幕府と武士との関係を考え、自分が御家人だったらどちらにつくかを広い視野で考え、判断することができる。</p> <p>イ 3 元と日本の戦いの違いなどから問題意識を持って課題を設定し、見通しをもって調べ、日本が勝てた原因について多面的に</p>	<p>ウ - 1 資料を見て、源平の戦いについて調べ、年表などにわかりやすくまとめることができる。</p> <p>ウ - 2 頼朝が京都から遠く離れた鎌倉に幕府を開いた理由を地理的な要因や勢力的な要因をノートにまとめ、根拠のある発言をして、お互いに高まりあえるように表現している。</p> <p>ウ - 3 元に勝てた原因について、調べた内容をノートにまとめたり、根拠のある発言をしたりして、お</p>	<p>エ - 1 鎌倉幕府の支配体制の確立の様子について気づくことができる。</p> <p>エ - 2 幕府の将軍と武士は、領地を仲立ちとしたご恩と奉公の関係で結ばれていた事を理解する。</p> <p>エ - 3 モンゴル軍の強さや武士との戦いの違いについて、理解することができる。</p>

うとする。 ア - 4 修学旅行で見た金閣や銀閣に興味を持ち武士の文化について、進んで調べようとする。	判断している。 イ - 4 約五十年後に滅んでいることから問題意識を持って課題を設定し、見通しをもって調べ、鎌倉幕府が滅びた原因について多面的に判断している。	互いに高まりあえるように表現している。 ウ - 4 幕府が滅んだ原因について、調べた内容をノートにまとめたり、根拠のある発言をしたりして、お互いに高まりあえるように表現している。	エ - 4 武士や庶民の間に広まった文化の特色について理解することができる。
---	---	---	---

6. 指導と評価の計画（全10時間）

（1）授業の流れ

- 第一次 武士の登場・・・・・・・・・・・・・・・・（1時間）
- 第二次 武士が力をつける・・・・・・・・・・・・（1時間）
- 第三次 源頼朝が平氏をたおす・・・・・・・・・・（2時間）
- 第四次 武士が東国を治める・・・・・・・・・・・・（2時間）
- 第五次 元の大軍が攻めてくる・・・・・・・・・・・・（3時間）
- 第六次 武士が新しい文化を生み出す・・・・・・・・（1時間）

（2）単元指導計画

時	ねらい	学習活動	評価規準	評価方法	指導・援助
1	武士が武士団を組織し、次第に実力を朝廷に認めさせていった過程を「金太郎伝説」をもとに考え、これからの学習に興味や期待をもつことができる。	源頼光と金太郎 ・ 朝廷、貴族のガードマン ・ 北面の武士（さぶらうもの）とよばれた頃 金太郎たちが退治した酒呑童子のモデルを考えよう。 調べたことをもとに意見の交流を行い、仲間の考えから、自分の調査結果をより確かなものとする。	ア - 1 資料から、武士の世の中に関心を持ち、そのおこりやくらしの様子を進んで調べようとしている。	学習ノート 酒呑童子のモデルについて資料をもとに根拠をあげながら考えることができる。	
2	初めて誕生した武士政権であったのに、武士たちから支持され	平氏の年表を見せ、清盛が太政大臣になってから18年後に平氏が滅んでいるわけを予想する。			課題追究の意欲を高めるために、平氏政権が初めての武士政権であったこと

	<p>ず、やがて頼朝によって滅ぼされてしまう理由を資料から 見つけ、交流することができる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>平清盛の政治に武士たちが不満を持ったのはなぜだろう</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・「平氏でないものはひとではない。」 ・貴族と同じように天皇の外戚となった。 ・恐怖政治 <p>調べたことをもとに意見の交流を行い、仲間の考えから、自分の調査結果をより確かなものとする。</p>	<p>イ - 1 初めての武士政権がなぜ武士から受け入れられなかったのかを資料をもとに多面的に考察している。</p>	<p>学習ノート 揭示資料や教科書、資料集などを参考にして、平氏が武士から受け入れられなかった根拠を記述しているか分析する。</p>	<p>を具体的に話し「それなのになぜ」という思いになれるようにする。</p>
<p>3</p>	<p>源平の合戦を中心にして、源頼朝や義経の活躍を調べ、年表や地図などの基礎的な資料を使ってわかりやすくまとめることができる。。</p>	<p>頼朝が兵を挙げてからわずか5年で平氏が滅んでいる事から、その戦いがどんな様子であったか予想する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>源頼朝はどうやって平氏をたおしたのだろう</p> </div> <p>教科書、資料集や本、漫画などを使って、具体的に調べ、自作年表などにまとめることができる。</p> <p>調べたことをもとに交流を行い、仲間の考えから自分の知識を確かなものとする。</p>	<p>ウ - 1 資料を見て、源平の戦いについて調べ、年表などにわかりやすくまとめることができる。</p>	<p>学習ノート 多様な資料を参考にしながら、源平の戦いの様子やそのエピソードについて、自分なりに工夫してまとめているかという観点から分析する。</p>	<p>源頼朝や義経の活躍やエピソード等を用意し、これらの人々に親しみを感じられるように配慮し、調べることの楽しさを感じながら学習が進められるように配慮する。</p>
<p>4</p>	<p>源頼朝が鎌倉に幕府を開いた理由を鎌倉の地理的な要因や源氏の勢力分布など多面的に考え、頼朝が武士中心の世の中を繰り上げ</p>	<p>都での最高位を断って鎌倉へ帰る頼朝の姿から、なぜ京都ではなく鎌倉に幕府を開いたのかを予想する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>どうして頼朝は、都のある京都でなく、遠い鎌倉に幕府を開いたのだろう。</p> </div>	<p>ウ - 2 頼朝が京都から遠く離れた鎌倉に幕府を開いた理由を地理的な要因や势力的な要因をノートにまとめ、根拠のある発言をし</p>	<p>学習ノート 意見交流 どんな事実をもとにして、自分なりの意</p>	<p>児童が驚きをもって「どうして～?」という課題意識をもてるように事象提示を工夫する。 個人追究の糸口がなかなかつかめない児童を一カ所に集め</p>

	<p>ようとしていたことが理解できる。</p>	<p>資料の中から興味のあるものを選択し、個人追究することができる。</p> <p>調べたことをもとに交流を行い、仲間の考えから自分の知識を確かなものとする。</p>	<p>て、お互いに高まりあえるように表現している。</p> <p>エ - 1 鎌倉幕府の支配体制の確立の様子について気づくことができる。</p>	<p>見をまとめているのかという観点から発言内容をつかむ。</p>	<p>て、それぞれの地頭のそれまでの学習の足跡をもとに適切な資料を示してやり、個人追究の視点を与えてやる。</p>
5	<p>なぜ武士たちが頼朝について命がけて戦ったのか、その理由を資料の中から見つけ出し、武士と頼朝 将軍 との関係がどのようなものであったか、理解することができる。</p>	<p>平家との戦いの絵を見せ、命がけて戦った様子を確認させ、どうしてだったのかその理由を予想させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>武士たちはなぜ頼朝について、命がけて戦ったのだろう</p> </div> <p>教科書や資料集により、「ご恩と奉公」や「いざ鎌倉」「一所懸命」という言葉やその意味を自分なりにとらえて、理解することができる。</p>	<p>エ - 2 幕府の将軍と武士は、領地を仲立ちとしたご恩と奉公の関係で結ばれていた事を理解する。</p>	<p>学習ノート 将軍と武士との関係について以下の言葉を使ってまとめてあるかを分析する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ご恩と奉公」 ・「いざ鎌倉」 ・「一所懸命」 	<p>課題追究の意欲を高めるために兄弟や親子でも争ったことをあげ、「それはどうしてなのか。」という思いになれるようにする。</p> <p>武士の日常生活において「ご恩と奉公」が生きていることを感じる資料を用意する。</p>
6	<p>頼朝亡き後、独裁を強める北条氏と後鳥羽上皇との関係を理解し、自分が武士ならどちらにつくか、今まで学習をもとに考え、自分の意見を話すことができる。</p>	<p>鎌倉幕府の力が東国に限られていたことや源氏が三代で滅んだこと北条氏が独裁を強めていった事を確認させ、後鳥羽上皇との争いがおきたことを理解させる。その上で自分が武士ならどちらにつくか考えさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>自分が御家人だったらどちらにつくだろう。</p> </div> <p>既習の学習の中から</p>	<p>ア - 2 自分の思いを意欲的に発表したり、仲間の意見を最後まで真剣に聞こうとしている。</p> <p>イ - 3 今までの学習をもとに鎌倉幕府と武士との関係を考え、自分が御家人だったらどちらにつくか</p>	<p>学習ノート 学習したことをもとにどちらにつくかが以下のポイントで記述されているかを分析する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご恩と奉公 ・北条氏の独裁への反感 ・上皇の方が身分が上 ・政子の言葉 意見交流 どんな事実を 	<p>当初幕府軍対朝廷軍の比率が18対1700であったことを示し、自分の判断の材料とする。</p> <p>その子なりの見方や考え方を価値づけてやったり一人一人の発言の根拠を明確にして互いの見方や考え方の共通点や相違点を明らかにし、</p>

		<p>自分の考えをまとめさせる。</p> <p>考えたことをもとに意見を交流する。</p> <p>承久の変の結果、幕府の支配国が増えたことや西国にまで及ぶようになったことを理解する。</p>	<p>を広い視野で考え、判断することができる。</p>	<p>もとにして、自分なりの意見をまとめているのかという観点から発言内容をつかむ。</p>	<p>一人一人の見方や考え方がより深まるように指導する。</p>
7	<p>モンゴル帝国 元帝国の領土の広大さや強さの秘密を理解し、日本の武士と戦い方が異なることを複数の資料より調べ、ノートにまとめたり、根拠のある発言をすることができる。</p>	<p>蒙古襲来絵詞の中の一部を見せ、蒙古軍と日本軍の戦い方の違いとモンゴル帝国の領土をから、その強さを秘密を予想させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>モンゴル帝国が、世界にまたがる大帝國を築くことができたのはなぜだろう。</p> </div> <p>資料より、モンゴル軍はすぐれた武器や騎馬軍団をもっており、降伏するものは許すが逆らうものは皆殺しにしていたこと等を調べる。</p> <p>調べたことをもとに意見交流を行い、仲間の考えから自分の知識を確かなものとする。</p>	<p>ア - 3 元の兵士と日本の武士が戦っている絵を見て、興味・関心を持ち元について進んで調べようとする。</p> <p>エ - 3 モンゴル軍の強さや武士との戦いの違いについて、理解することができる。</p>	<p>学習ノートいくつかの資料を参考にしながら、モンゴル軍の強さについて、複数の理由をあげて調べているか分析する。</p>	<p>モンゴル帝国の中に現在いくつの国が含まれているか数えさせ、その領土の広大さが理解できるようにする。</p>
8 本 時	<p>強大な元に日本 時宗が勝てた理由を武士の奮戦（御恩と奉公）、元軍の士気の低下（いろいろな民族の寄せ集め、病気の発生）、暴風雨等のためであ</p>	<p>元寇の結果を教え、日本が元に勝ったことからその理由を予想する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>時宗が率いる日本がフビライの元に勝ったのはなぜだろう。</p> </div> <p>資料より、元に日本が勝てのにはいくつかの原因があることを調べる事ができる。</p>	<p>イ 3 元と日本の戦いの違いなどから問題意識を持って課題を設定し、見通しをもって調べ、日本が勝てた原因について多面的に判断している。</p> <p>ウ - 3 元に勝てた原因</p>	<p>意見交流 どんな事実を</p>	<p>児童が驚きをもって「どうして～？」という課題意識をもてるように事象提示を工夫する</p> <p>その子なりの見方や考え方を価値づけてやったり一人一人の発言の根拠を明確にして互いの</p>

	<p>ることが、資料やそれまでの学習から考えることができる。</p>	<p>調べたことをもとに交流を行い、仲間の考えから自分の知識を確かなものとする。</p>	<p>について、調べた内容をノートにまとめたり、根拠のある発言をしたりして、お互いに高まりあえるように表現している。</p>	<p>もとにして、自分なりの意見をまとめているのかという観点から発言内容をつかむ。</p>	<p>見方や考え方の共通点や相違点を明らかにし、一人一人の見方や考え方がより深まるように指導する。</p>
9	<p>元との戦いで命がけで働いた御家人が恩賞がもらえず、御恩と奉公の関係が崩れていったこと等が原因で幕府が滅んだことに気づくことができる。</p>	<p>元寇のあと、50年で鎌倉幕府が滅んだことから、その理由を予想する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>元に勝ったのに鎌倉幕府が滅んだのはなぜだろう。</p> </div> <p>資料の中から興味のあるものを選択し、個人追究することができる。</p> <p>調べたことをもとに交流を行い、仲間の考えから自分の知識を確かなものとする。</p>	<p>イ - 4 約五十年後に滅んでいることから問題意識を持って課題を設定し、見通しをもって調べ、鎌倉幕府が滅びた原因について多面的に判断している。</p> <p>ウ - 4 幕府が滅んだ原因について、調べた内容をノートにまとめたり、根拠のある発言をしたりして、お互いに高まりあえるように表現している。</p>	<p>意見交流 どんな事実をもとにして、自分なりの意見をまとめているのかという観点から発言内容をつかむ。</p>	<p>郷土資料（岩井城、和田滝寛坊）を用意して調べ学習の時の意欲を喚起する。</p> <p>個人追究の糸口がなかなかつかめない児童を一カ所に集めて、それぞれの児童のそれまでの学習の足跡をもとに適切な資料を示してやり、個人追究の視点を与えてやる。</p>
10	<p>金閣寺、銀閣寺、すみ絵等を中心に調べて、武士が新しい文化を生み出したことと今も多くの人に親しまれていることを理解することができる。</p>	<p>金閣、銀閣の写真を見せ、武士が作り出した文化についてどんな特徴があるか予想する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>武士はどんな文化を生み出していったのだろう。</p> </div> <p>調べたことをもとに交流を行い、仲間の考えから自分の知識を確かなものとする。</p>	<p>ア - 4 修学旅行で見た金閣や銀閣に興味を持ち武士の文化について、進んで調べようとする。</p> <p>エ - 4 武士や庶民の間に広まった文化</p>	<p>学習ノート 室町の文化について、いくつかの資料を参考にして、わかりやすくまとめることができる。</p> <p>意見交流 どんな資料をもとにして、自分なりの意見をまとめているのかとい</p>	<p>修学旅行の時の写真を見せて、動機付けをする。</p> <p>5年生には、資料集や写真などから調べることができるように配慮する。</p>

		の特色について理解することができる。	う観点から発言内容をつかむ。	
--	--	--------------------	----------------	--